

聾学校早期教育部門0～2才教育相談の学習形態(2)

正会員 ○ 萩田 秋雄*1

聾学校の建築計画に関する基礎的研究6

平根 孝光*2

□はじめに

本編は、前編に引き続き、聾学校早期教育部門0才～2才児教育相談における、指導内容、指導時間等の学習形態の概要を報告するものである。

乳幼児の全体的発達に関すること、7.両親指導、8.子供の障害の受容等の項目に分けてまとめたものであり、その各項目の記述内容は[表-2]に示す通りである。

□主な指導内容

0才～2才児教育相談での主な指導内容を学年編成タイプ別でみたものが[表-1]である。なお記述方式で行った主な指導内容を、1.聴覚管理に関すること、2.聴覚活用学習に関すること、3.ことばの獲得に関すること、4.母子関係に関すること、5.生活習慣に関すること、6.

主な指導内容としては、今日の聴覚障害乳幼児教育法を展開する上で最も重要なものとなる聴覚管理、聴覚活用学習に関する指導の割合が最も高く、ついでことばの獲得、母子関係、生活習慣、全体的発達に関する指導となっている。また、この内容はどの学年編成タイプにおいてもほぼ同様となっており、聴覚障害乳幼児教育法としてほぼ定着をみているといえよう。

[表-1] 0～2才教育相談における主な指導内容

(校)

編成タイプ	分析対象校数	聴覚管理	聴覚学習	ことばの獲得	母子関係	生活習慣	全体的発達	両親指導	受容	その他
1学年編成	22	16 (72.3)	17 (77.3)	13 (59.1)	13 (59.1)	9 (40.9)	9 (40.9)	5 (22.7)	1 (4.5)	4 (18.2)
2学年編成	27	19 (70.4)	22 (81.5)	17 (60.3)	18 (66.7)	15 (55.6)	14 (51.9)	7 (25.9)	2 (7.4)	4 (14.8)
3学年編成	24	23 (95.8)	19 (79.2)	18 (75.0)	15 (62.5)	21 (78.5)	18 (75.0)	6 (26.0)	1 (4.2)	4 (16.7)
計	73	58 (79.5)	58 (79.5)	48 (65.8)	46 (63.0)	45 (61.6)	41 (56.2)	18 (24.7)	4 (5.8)	12 (16.4)

* () は %

[表-2] 指導項目の内容

1. 聴覚管理	補聴器の使い方、H A管理、聴力検査、フィッティング、補聴器装用、オーディオグラムの見方、聴力測定
2. 聴覚学習	聴覚活用、歌あそび、音楽リズム、感覚訓練あそび、音あそび、音さがし、楽器の聞き分け、聴覚開発、聴能訓練、残存聴力への働きかけ
3. ことばの獲得	ことばの指導、発声誘導、呼吸訓練、舌体操、口声模倣、発音・口形指導、息の出し方指導、自然な発声
4. 母子関係	母子コミュニケーション、親子のかわり方・接し方、母子あそび、育成、気持ちを通い合わせるか、かわり方、子供との心の交流、母子関係の育成
5. 生活習慣	身辺自立、生活リズム、しつけ指導、基本的な生活習慣の指導、日常生活指導、トイレトレーニング、排泄、着脱指導、食事、
6. 全体的発達	手あそび、絵日記、制作あそび、年令・発達に応じたあそび、お遊戯、体験あそび、手運動、体育あそび、ごっこあそび、室内あそび、絵本、他児とのかわり
7. 両親指導	母親講座、両親講座、子育て講座、母親指導、母親相談、家族の理解と協力、母親同志の座談会
8. 障害の受容	障害の受容と克服に関すること、子供の将来の見通しについて、
9. その他	視覚教材の提示について、個人面談、育児記録指導、家庭訪問、家庭学習の仕方、福祉について、援助(役所への手続き・代書)、福祉関連情報の提供

Learning formation of 0-2 years old section in the Deaf School (2)

A basic study on architectural planning for the Deaf School 6

HAGITA Akio et al.

[表-3] 0～2才教育相談における指導時間

(校)

計	個別指導			時間 (分)	グループ指導							計	
	2才	1才	0才		0才	1才	2才	0・1才	1・2才	0・1・2才	2・3・4才		
1.2 (8.1)	1.0 (13.3)	2 (4.1)	-	60未満	-	-	2 (3.8)	-	-	-	-	-	2 (2.1)
6.3 (42.3)	2.7 (36.0)	2.2 (44.9)	1.4 (56.0)	60-119	-	(7.4)	(1.9)	(40.2)	(14.3)	(25.0)	-	-	(7.1)
5.8 (38.9)	2.7 (36.0)	2.0 (40.8)	1.1 (44.0)	120-179	(100)	(48.1)	(46.2)	-	(42.9)	(75.0)	(100)	(2)	(46.9)
1.1 (7.4)	8 (10.7)	3 (6.1)	-	180-239	-	(29.8)	(23.1)	(40.2)	(28.5)	-	-	-	(24.5)
5 (3.4)	3 (4.0)	2 (4.1)	-	240以上	-	(14.8)	(25.0)	(20.1)	(14.3)	-	-	-	(19.4)
14.9 (100)	7.5 (100)	4.9 (100)	2.5 (100)	計	(100)	(27)	(52)	(5)	(7)	(4)	(2)	(98)	(100)

* () は%。0・1才等は複式学級。

□指導時間

0才～2才児教育相談の個別指導及びグループ指導の指導時間を学年別でみたものが[表-3]である。

まず個別指導の指導時間を学年別でみると、校数は少ないものの最大300分を含め240分以上の指導時間を取っている学校も2才児以上でみられるが、全学年を通して60～119分が最も多く、次いで120～179分となっており、この60～179分で8.5割弱を占めている。一方、グループ指導では、学年単位での1才児と2才児とは、2才児の方が若干指導時間を長くとする傾向はみられるものの、学年単位、学年合同のどちらも最も多くなっているのは120～179分である。

これらのことから、個別指導では約1～3時間程度、グループ指導では約2～3時間程度の指導時間を取っているとみることができる。

□まとめ

これらのことから、0才～2才児教育相談における全般的状況及び学習形態にみられる特性等についてまとめると、以下ようになる。

- 1) まず0才～2才児教育相談の全般的状況であるが、教育相談に在籍乳幼児がいる学校は9.5割強にのぼり、幼稚部を設置している殆どの聾学校で行われている。
- 2) 教育相談の乳幼児在籍校を年齢別でみると、0才児が4割弱、1才児7割強、2才児9割弱と年齢が高くなるにつれ、その割合は高くなる。また、学校当たりの学年別平均人数は、0才児1.6人、1才児2.9人、2才児4.4人となっている。
- 3) つぎに教育相談の指導形態についてであるが、聴覚障害乳幼児期の指導は、乳幼児はもちろん母親に対しての指導も主となることから、全ての学校で学習集団の主構成員として参加している。したがって教育相談の基本学習集団としては、母親+聴覚障害乳幼児+教員となる。
- 4) 教育相談では、その基本学習集団を基に個別及びグ

ループによる指導が行われている。

5) 個別及びグループによる週間指導形態は、おおよそ0才児では個別指導を重視した指導が行われ、1才児で個別+グループの指導形態へと徐々に移行し、2才児において殆どが個別+グループの指導形態となるといった基本的な指導形態をみることができるといえよう。

6) その週間の指導回数は、個別指導のみが週1回、個別+グループも週各1回が大半を占めているが、多いものでは一週間の個別1回+グループ5回という学校もある。この指導回数については、聴覚障害の程度によっても異なってくると思われることから、オージオロジストの判断を待たねばならないであろう。

7) 指導内容は、聴覚を最大限に活用するという今日の聾乳幼児教育法を展開する上で最も基本的な事項となる、聴覚管理及び聴覚活用学習を主とした内容となっている。この内容は、各学年編成タイプとも同様であることから、ほぼ全校とも今日の指導方法に則した指導が行われているといえよう。

8) 個別指導及びグループ指導の指導時間は、個別指導では約1～3時間程度、グループ指導では約2～3時間程度の指導時間を取っているとみることができる。なお、指導時間の長い学校では個別指導で5時間、グループ指導で8時間というのもあり、適正な指導時間についてもオージオロジストの判断を待たねばならないであろう。

9) その指導場所であるが、殆どの聾学校では、その専用室は1室のみとなっており、したがって専用室だけで対応できない場合には、幼稚部諸室はもちろん、職員室コーナー等の使用もみられる状況にある。0才～2才児教育相談が学校教育法では対象外となとはいえ、指導内容に対応した指導室の整備は急務となるといえよう。

本研究は、平成7年度文部省科学研究費(一般C代表平根孝光)を受け行った。調査にあたっては、全国聾学校長並びに先生方に多大なご協力をいただきました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

*1 筑波技術短期大学 教授・工博 Assoc. Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tukuba college of Technology, M. art
*2 筑波技術短期大学 助教授・芸修 Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tukuba college of Technology, Dr. Eng